

第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針 令和元年度説明会の概要（10月実施分）

【十日町地域】

日時、会場等		主な意見等
吉田地区	日時	10月4日（金） 18：30～19：50
	会場	吉田ふれあいスポーツセンター
	対象	吉田中学校 ・学校運営協議会 ・保護者
	人数	9人
		① 吉田中、吉田小の保護者として、学校規模の人数は多い方が良いと思っている。吉田に小中一貫校の設置は難しいとのことであるが、小学校の統合は良いとしても、中学校が、いきなり川を越えて南中学校へというのには抵抗がある。一旦、吉田中と松代中で統合するとか、南中学校区の小学校を吉田へとか、色々な案があっても良いのではないか。地域としても、反対というだけでなく、吉田中を残すための活動や努力を示して、今くらいの人数を保てるような案が示せると良いと思う。 [答] 貴重な想いをお聞かせいただいた。川を越えるストレスについては聞いているところであるが、姿や貝野など、他の地域でも川を越えているところもある状況である。南中学校区から吉田へということについては、ひとつのアイデアであると承る。また、松代中と一旦、統合する案については、松代中の方でも、同じ考えでまともれば、教育委員会としても検討事項となると考える。学区検討委員会でも検討されたが、1学年2学級以上の規模という基本方針では、一旦統合して、すぐに、また統合ということが課題にならない方が良くとのことから、南中学校へ一挙に統合という案を示させていただいた。市民の皆様、特に保護者の皆様には、それが大きなストレスとなることについて、改めて感じさせていただいた。地域として吉田中の継続に対しての努力をいただくことについては、たとえば松之山地域では、中学生の減少が見込まれてはいるが、山村留学などにより、生徒数の増加を目指したいという話も聞いているところであり、吉田中においても、生徒数の維持ができるようであれば、教育委員会としてもありがたいことである。 ② 吉田地域は、現在、学力、体力、いじめや不登校も聞いておらず、大変良い状態にある。統合により、それが崩れるのではないかと心配である。 [答] 今は、どの学校も荒れているという状態の学校はないものと認識している。吉田地域の皆様の駅伝やスキーに対するご支援はすばらしく、ありがたい。それが、子どもへの学力、体力、いじめ等がないことに結びついている。これからもご協力いただきたい。そんな中で、小学校の統合については引き続き検討いただき、保護者と地域の話し合い、コンセンサスを得て、ぜひ進めていただきたい。 ③ 統合となった場合は、スクールバスの運行については小学校4キロ、中学校6キロという基準はあるが、配慮いただきたい。 [答] スクールバスの運行については距離のみならず、橋を渡るなど道路状況により判断している。教育委員会として、しっかり検討する。 ④ 吉田小の1・2年生は、今年から複式となり、2年生は昨年の単学級から複式となり、子ども達も先生方も大変そう。少人数で良くしてもらっているが、できれば大勢の中で学ばせたい。中学校でも、部活の選択

(吉田地区)		肢が限られることも大きな悩みで、選択肢を広げてあげたい。統合目標が10年先だと意識が薄れる。早く進んでくれることを希望している。地域の中で皆さんの意見を聞き、地域で話し合いができると良いと思う。 [答] 中学校については10年後を目標としてあるが、話がまとまればもっと早くにという取り組みである。小学校は令和3年度または4年度という提案であるが、小学校の複式解消という目標は、第1次の方針からの課題であり、地域でも色々な想いの中で議論をされてきたことと思う。踏ん切りをつけていただければありがたいところである。また、少人数の中学校で、部活の選択肢が限られるのは事実であり、そんな中で、どこの地域でも、地域の皆さんというより、先に保護者の皆さんの気持ちを高めていただき、話し合いを深めていただくのが第一と感じている。たとえば、貝野地区では、数年間に渡り、統合に向けての動きがあった中で、最終的には、保護者の統合希望の意向をまとめ、各集落の皆さんに説明し、地域の了解をいただいたという経過をたどった。地域の了解を得るというやり方は、地域それぞれであり、これはひとつの参考として、地域でご議論いただければありがたい。あと小人数の学校で気になっているのは、学級全員が男子のみ、または女子のみのところがあり、これからの社会を生きていくには、小さい頃から、ある程度の男女バランスがあった方が良く思っている。 ⑤ 少人数、大人数と、両方ともそれぞれ良さはあるが、部活動の選択という面では、吉田は課題がある。大きい学校になればなったで、それが良い方向に向いていけば良いと思う。 [答] 少人数であることがすべて良くないという訳ではなく、ある程度の規模になることによって、子ども達の活動の可能性が広がると思っている。現在、複式の学校では、先生方の必死の努力で、複式の弊害をできるだけ小さくしながら教育活動を行っているというのが実態である。複式学校区の未就学児の保護者の中には、統合予定校への就学を希望する方もいる。教育委員会が、地域の皆さんの同意なしに統合を進めるということはないので、色々な想いの中で、難しいことではあると思うが地域として方向を決めていただければありがたい。そういう中で、保護者の皆さんの気持ちを、まずひとつにさせていただき、地域の皆さんとの話し合いについて、教育委員会の立場として協力できるところをご協力させていただくので、お声がけいただきたい。 ⑥ 今後の進め方について、教育委員会が住民アンケートを実施するなどしながら進めていくのか。 [答] 教育委員会がアンケートを取ることは考えていない。地域で検討する流れの中で、タイミングを見て独自で行われるものとする。 ⑦ 中学校の統合案で示されている南、吉田、松代の3中学校区合同の話し合いの場を設ける予定はあるか。 [答] そういう機運が高まってくれば、必要であると考え。学校の中の組織として学校運営協議会などがあるが、新しい学校を作っていくこと、学校運営のやり方、後援会のあり方やPTA、中学校名の検討も含め、一堂に会した場は必要となる。松代地域の住民の方への説明会はこれからなので、機運が高まるまでには、もう少し時間がかかるのではないかと考えている。 ⑧ 地域の反対があれば、計画どおりには進まないことになるのか。
---------------	--	--

			[答] 目標年度にはできないことも考えられる。第1次の方針でも小学校の統合のご提案をしたが、統合となっていない学校があり、時間がかかるものと捉えている。今回、初めて中学校統合のご提案をしたが、最終的には地域の皆さんがどう考えるかであると思っている。 ⑨ たとえば、南中と吉田中が、先行して統合することもあるのか。 [答] ありうるものとする。地域での色々な議論の中で、色々なアイデアも出るものと思っているので、教育委員会としても耳を傾けていきたい。 ⑩ 吉田地区では、10月16日の地域への説明会でひと通りの説明が終わる。今後、地域での検討、話し合いにおいて、必要であれば、また教育委員会に出席をお願いしたい。 [答] いつでも、呼びいただければ出席するので、お声がけいただきたい。
水 沢 地 区	日時	10月7日(月) 19:00~20:40	① 今回の適正化方針は、子どもにとって適正化なのか、行政にとってなのか、保護者にとってなのか、具体的にどこがわからない。自分は冬季分校で複式で学んだが、大変充実していた。現在は不登校の子ども達と関わりをもっており、その経験から、最終的には1対1の学習が良いと実感しており、このやり方で不登校から復帰して頑張っている子もいるので、少人数になっても馬場小は統合しないで頑張してほしい。 [答] 適正化の方針は、文科省等からの資料にもあるが、子ども達の可能性が広がるものと考えている。行政としては学校数が多いよりは少ない方が、指示指導はやりやすい面はある。学区検討委員会では、第一には子ども達の学ぶ環境がどうあるべきかを議論していただいた。地域や保護者など市民の方々16名からなる委員会では、色々な規模の学校視察、ワークショップ、グループ討議を経て、多方面から議論いただいたが、行政面、経費面からではなく、純粋に子ども達の教育環境を考えていただいた。統合については教育委員会が独断的に進めることはないので、複式校のメリット・デメリットを踏まえて、最終的には地域の皆さんのご議論をどう進めていただけるかであると思っている。 ② 馬場小が水沢小への統合は心配である。事前に交流を図るとあるが、数回の交流では充実しない。子どもの世界では異質な者として扱われ、他地域でも統合により不登校や別室登校になっている子がいると聞いている。自分の子もいじめが原因による不登校からひきこもりになり、その時の学校の対応に疑問を抱いている。少人数の学校からの統合時には、学級編成時に同じ学級にするなどの配慮をしていただきたい。 [答] 市では小中一貫教育を進めているが、小と中の連携だけでなく、小学校同士の連携教育も行っている。馬場小と水沢小も、色々な場面ですでに交流活動を行っており、以前ほど、子ども達が初めて一緒になるというイメージではないと思っている。統合した学校の保護者からは、子どもは友達が増えて良かったと話していると聞いている。統合が原因による不登校が発生した場合には、教育委員会としてしっかり見ていかなければならないので、現在、不登校となっている原因についてはしっかりと確認していきたい。また、子どもがいじめが原因で、不登校からひきこもりになられたとのことについては、過去のことであったとしても、教育長として謝らなければならないと感じている。これからも、いじめや人権問題について、現場の先生方から
	会場	平成園	
	対象	馬場小学校区住民	
	人数	17人	

（水沢地区）		も、いじめの見逃し等が無いよう、しっかりと対応、努力してもらう。統合時の学級編成については、その時の学校や生徒の状況、状態を見ながら考えていく。 ③ 中学校の統合では、かなり遠くからの通学となるところがあり、通学に係る負担が不安であり、心配である。 [答] 現在、スクールバスはNPO法人や市営バスなどで運行している。遠くから通うことになることについては心配する声も聞いている。一番遠いところからは1時間程度かかるのではないかと思うが、運行経路を検討する中で、子ども達の負担が軽減されるよう、しっかり検討していきたい。 ④ 部活動について、学校単独でなくても合同チームを組むことで良いのではないか。 [答] 現在、野球などの団体競技では合同チームで参加する学校も増えている。普段から一緒に練習できないという悩みの声を聞いている。中学校における部活動は、心や体を鍛えるという大事な教育活動と捉えている。統合にあたっては学習面だけでなく部活動についても、保護者の皆さんからお考えいただければと思っている。 ⑤ 率直に、学校が無くなることについては残念であり、嫌な気持ちが最初にあるが、子ども達のことを考えるうえで、子ども達の人数の減少を見るとやむを得ないと思う。お願いとして、心配する色々な面を考慮いただき、閉校後の施設の活用についても、市で十分検討いただきたい。 [答] 馬場小は市内でも一番伝統のある小学校で、汎愛村校というすばらしい文化を持っている。子ども達の数が維持できれば残したいと思うところであるが、複式が続いている現状から、保護者の皆さんがどう考えるか、できれば地域の皆さんからは、保護者の皆さんの意見を尊重いただければありがたいと思っている。閉校後の施設の活用については、市内でも大地の芸術祭での活用や民間企業への売却により雇用が生まれる場合もある。地域での活用も検討いただきたい。もし、活用の見込みがなければ解体となる場合もある。 ⑥ 8月に行った馬場小保護者説明会で出た意見等の資料は無いのか。 [答] 説明会でいただいたご質問やご意見等は、順次、ホームページで公開している。7月分の概要は8月下旬に、8月分は今週中（10月上旬）にUPする。本日、資料としては持参していないため読み上げる。（読み上げ分は省略） ⑦ 馬場小保護者からの要望や質問が出ていると思うが、それに対する回答の場はあるのか。また、その内容について地域の方にも知っていただいたり、話合う機会を設けていただけるとありがたい。 [答] 保護者の方々からの要望やご質問に対する回答の場は、馬場小PTAの方で日程調整中である。今回のような地域の方への説明機会も1回だけではなく、今後も馬場小PTAの役員さんとも相談しながら対応していきたい。 ⑧ 子ども達の交流については、ふれあう時間を十分作り、相当な期間をもって充実させていくべきと考える。 [答] 統合の方向となれば、交流期間として1年半程度は持てる。今まで統合した学校でも、特に統合前1
--------	--	---

水 沢 地 区	(水 沢 地 区)		年間はしっかりと充実した交流が行なわれている。また、統合に関わらず、普段から交流している学校もあり、たとえばマラソン大会などの行事を一緒に行うような交流があっても良いのではないかと思います。 ⑨ まつのやま学園は、生徒数の見込みを見るとかなり深刻な状況で、こちらの方が喫緊の課題なのではないか。まつのやま学園だけ検討対象から外れている理由は何か。 〔答〕 まつのやま学園は、老朽化した松之山中学校を松之山小学校と一体化して改築し、小中一貫校として新しい教育体制のもと、平成 29 年度に開校したばかりであることが理由のひとつである。ふたつ目の大きな理由は地理的な状況として通学距離がかなりあることである。そんな中で、松之山地域は以前、山村留学で都会から子ども達を連れてきていた経緯もあり、今の振興会役員の方で山村留学に関わっていた方もおり、地域を応援する東京松之山会というしっかりした支援組織もあることから、もう少し、これからの推移を見守っていきたいと考えている。 ⑩ 地域に学校が無くなることには抵抗がある。たとえば、中里と水沢、どちらかに小学校、どちらかに中学校を置くというのはどうか、また、両地域の間地点にある馬場地区に新たに学校を作るなどの考えや検討がされたかどうかお聞きしたい。 〔答〕 学校の設置について新たなご提案をいただいたが、市では学校の耐震化事業に 100 億円以上投資しており、今回の検討にあたっては新たな投資を伴わない範囲で検討した。これからは公民館などの社会教育や社会体育施設へ投資をまわしたいという思いがあり、新たな学校を整備するという教育委員会としての考えは持っていない。 ⑪ 子どもにとって遊びは重要である。交流も馬場小から水沢小だけでなく、水沢小から馬場小へも行うべきと考える。 〔答〕 学年行事などで色々な交流が行えると良いと思っている。
		日時 10 月 8 日 (火) 19 : 00 ~ 20 : 10 会場 水沢公民館 対象 水沢小学校区住民 人数 35 人	① 保護者の同意というのは、説明会とは別に何かを行うのか。閉校になる学校だけ行うものなのか。 〔答〕 水沢地区で具体的には、馬場小学校を閉じて水沢小学校へ統合という計画である。まず馬場小学校の保護者の皆さんから方向をまとめていただき、そのあとで地域の皆さんと話し合って決定していただくことを想定している。 ② 学区再編の期日は、令和 10 年度に一斉に統合するものではなく、準備ができ次第、できなければ遅くなるということか。 〔答〕 中学校は、令和 10 年度を目標としているが、地域の皆さんの反対が強ければ進められない。地域の皆さんがご理解いただき、地域コンセンサスが取れるようであれば、令和 10 年度の前でも構わないし、地域の事情によりその後になることもあると思っている。 ③ 水沢中に中里中が統合すると、送迎のスクールバスが非常に複雑になると思う。中里の子どもたちに、不便や不快な状態では良くないので、十分な準備をお願いしたい。休日に部活動のスクールバス送迎は、今ま

で無かったようだが必要となると思う。生徒が、急病などでは家族に迎えに来てもらおうと思うが、いつもそう言えるのか心配である。

[答] 休日の部活動には、今はスクールバスを運行していない。統合でエリアが広がった場合どうするかが大きな検討課題だと思う。急病のときには、養護教諭が病院に連れて行くなど、状況に応じて学校が適切に判断する。

④ 令和10年を目標に統合するというが、令和13年の水沢中と中里中の2年生を合わせて50人である。統合して何年もしないうちに1学年1学級になるようでは、何のための統合なのか。生徒数は増える見込みなのか。

[答] 資料については推計であり、昨年度生まれた子どもが令和13年度には中学1年生になることから、中学校の規模を見込んでいる。中等教育学校へ進学する子どももいるので、さらに人数が圧縮されてしまうが、今年策定した資料ではこのようになった。令和13年度の2年生が50人で、25人ずつの2学級である。40人で1学級という基準である。教育政策で30人学級に変われば、学級数はもう少し増えてくると思う。将来については、はっきりと言えないが、市は少子化対策や人口増の対策をしている。自然増減では、子どもの生まれる数より亡くなる方の数がとても多く、転入・転出の社会増減では落ち着いてきた傾向もある。UターンやIターンなどや地域おこし協力隊が定住率7割など、徐々に色々な形で施策的な成果が上がってきているのではないかと感じている。

⑤ 昨日は馬場小学校区の住民説明会が行われたようだが、差し支えなければ雰囲気的なものを教えてほしい。

[答] （10月7日平成園での馬場小学校区住民説明会の概要と同様のため省略）

⑥ 方針について、万が一話し合いが決裂した場合に、今までどおりの教員配置が可能なのか。教職員の配置基準があっても、十日町市として独自に教員を配置して教育できないのか。少子高齢化は前から分かっていたこと。地域に子どもたちを増やすことができないか、行政として積極的に働きかけてほしい。

[答] 地域の皆さんの反対が強くて統合ができないとなった場合であっても、しっかりと教育環境を整え、子どもたちに大きなストレスが無いよう学校を運営していく。極小規模になると教員数も少なくなり、小学校で2学級になると教頭や養護教諭も配置されないという、非常に困った状況になる。教員配置は、新潟県教育委員会の権限であり、市ができることは教員の補助的な教育支援員の配置しかない。地域の子どもたちを増やすということでは、この地域に定着して、この地域に勤めて所帯を持ってもらうよう、子どもたちにキャリア教育として市内企業からご協力いただき、紹介や体験をしてこの地域に勤めることの魅力を感じるような取り組みを行っている。

⑦ 部活動の団体競技のことが挙がっているが、統合が完了するまでの間で部活動を理由に学区外就学が認められないものか。部活動が教育課程に載っていないとしても、子どもたちにとっては教育的な成果も上がるものである。問題もあると思うが、基準を設けながら子どもの要望をかなえてあげるよう、前向きに検討

			してほしい。 [答] 学区外就学の基準があり、転居したが卒業まで今の学校に通いたいなど、基準に合うものであれば認めている。部活動を理由とした学区外就学については、今は取り組んでいない。改めて検討しなければならない課題であると思う。 ⑧ 説明会日程表の中に未回答という記載がある。どういう意味か。 [答] 地域自治組織に開催について問い合わせしており、その回答がないため未回答としているが、説明会を開催しないということではない。 ⑨ 橘小学校の統合について、橘地区振興会が反対していると新聞に載っていたが、どうなるのか。 [答] 説明に伺う前に、橘地区振興会が署名を集めて教育委員会に統合反対の要望書をいただいた。説明会で説明させていただいた際には、上野小学校に統合して橘小学校が無くなる事による切なさなどを感じた。しっかり議論していただき、納得の上で統合をお願いしたい。
吉 田 地 区	日時	10月16日（水） 19：00～21：30	① 平成 21 年度に第 1 次学区適正化の方針が示され、小学校の統合について平成 30 年度までに結論を出すように言われ、吉田地区自治振興会として話し合い、平成 26 年度にアンケートをとり結論を出して要望書を提出したものである。平成 30 年度までということ議論を重ね結論を出した。なぜ今このような方針に変わってしまったのか。分かっていたならもっと早く教えてほしかった。複式学級の他の地区では全く検討をしていなかったと聞いた。まじめに結論を出す必要はなかったように思う。子どもの数が多い方が良いことは分かるが、教育委員会の話の進め方に不満があり意見させてもらった。 [答] 平成 21 年度から 30 年度までの計画期間として、複式学級のある全ての小学校について検討をお願いしたものである。吉田地域の皆さんからは、熱心に議論賜り感謝申し上げる。ご期待に添えなかったことについては申し訳なく思う。第 2 次方針については、昨年 7 月 3 日から検討が始まり、今年の 3 月 11 日に答申をいただいた。子どもたちの数が急激に減っていく状況の中で、特に中学校についてはある程度の規模が必要ということと、統合してまたすぐ統合するようでは困るということで、厳しい答申がなされたと思う。昨年の 12 月に中間報告で議会へ説明したものが、新聞記事となり市民の皆さんに大きな不安を与えてしまった。松代地域の皆さんからは、統合に反対という署名をいただいた。橘地域の皆さんも反対ということで署名をいただいた。当方が説明する前に、反対する活動があったもので、当方としては、改めて地域に入ることをお許しいただき、各地域で説明をしている。地域に学校がなくなることは、本当に切ないことだと思っている。吉田地域の皆さんが、子どもたちの育みに対する熱烈な思いや活動を実践されていることは承知している。今年 2 月の全国中学校スキー大会では、地域を挙げて支援してくださり感謝を申し上げます。子どもの数が想定以上に少なくなっている状況があり、検討委員会の答申を受け、教育委員会として結論を出したものである。地域の皆様には、子どもたちの数について初めて説明させていただいた。改めて検討していただければ大変有難い。
	会場	吉田ふれあいスポーツセンター	
	対象	吉田地区住民	
	人数	65 人	

- ② Q & Aに地域の合意なしに統合を進めることはありませんとあるが、具体的にどういうことになるのか。
[答] 今までの統合の例では、学校に関係する地域の代表者やPTA会長などの連名で、統合要望書を教育委員会に提出いただいている。教育委員会は、十日町市地域自治推進条例に基づき、公の施設の設置及び廃止について、関係する地域自治組織に意見を求める。地域に大きな反対があれば承諾はできないものである。地域自治組織から了解を得た段階で、市長が十日町市立学校設置条例の一部改正を議会に諮るという手順である。
- ③ 今日ここに居る方々のほとんどが、統合に反対が圧倒的だと思う。統合に絶対反対ということではなく、統合に選択の幅を広げる発想があつていいのではないか。1学年2学級にこだわって、松代中と川西中も統合の対象となっており、川の西側に中学校が無くなってしまう。これを解消する方法として提案する。2学級にこだわらなければ、川西側に1校あっても良いのではないか。1学級であっても教育内容がマイナスになるとは限らない。それと吉田中学校の立地条件が市内でも最高だと思う。眺望も良好である。また、吉田クロスカントリーコースが併設されている。立地条件に恵まれた学校を活用して、松代、吉田、川西を1校として吉田中学校の校舎を使用することができないか、検討してほしい。
[答] 学校統合の場合、学校の規模で容量がどのくらいあるのかがひとつの検討材料である。吉田中学校は、普通学級が5、特別支援学級が1ということで、松代中を含めることの可能性はあるが、川西中については現在169人で6学級ある。それを全て吉田中学校へまとめることは容量的に難しいことをご理解いただきたい。吉田中学校の眺望がいいということは同感である。
- ④ 容量の問題を挙げて説明されたが、例えば川西中学校に十分容量があるなら検討の材料として良いと思うが、とにかく川西側に中学校を1校設置することを選択肢に入れてほしい。
[答] 只今のご発言については、他の地域でも挙がっているものであり、今後説明会を終わった段階で総括して、どういうことができるか検討しなくてはならないと思う。
- ⑤ 少子化は、途中から急に子どもが増えることはあり得ない。子どもたちを中心に、小学校6年、中学校3年の9年というのはすぐに過ぎてしまう。その時期にきちんとした教育を受けられるように、その後は自分で学ぶことができる。私の考えは、できるだけ早いうちに学校の体制を整えることが、子どもにとって将来的には良いと思う。
[答] 複式学級だから極端に学力が下がることはない。教職員数が少なくなると、学校運営の中で波があり、子どもたちの可能性を広げるには、ある程度の規模の学校で学ぶ方が安定的で良いのではないかということでこのような方針をたてて説明している。少子化の状況を見ながら地域の中でご議論賜りたい。
- ⑥ 吉田中学校の自然環境は素晴らしいものだと思う。吉田山谷に市の文化財である積翠荘があり、その命名は亀田鵬斎という江戸時代の文化人である。子どもたちに歴史・文化をそこにあるもので教える。吉田地区には、十日町市を代表するような景観や自然環境、教育環境がある。吉田は十日町市の真ん中に位置している。むしろ南中や松代中を吉田に寄せてはどうか。100年先を見据えて考えてほしい。

(吉田地区)	[答] この地域の景観は素晴らしいものであり、積翠荘の歴史についても改めて教えていただいた。吉田中が真ん中というのは確かにそうであるが、統合にあたり南中学校の大人数を連れてくることが、非常に困難な部分がある。それから吉田中学校は教室数がそれほどない。長い将来の中では、そういった発想もあるかもしれないが、この10年の計画の中では難しいと考える。 ⑦ 大規模校と小規模校のいじめの発生率を比較したことがあるのか確認したい。飛渡第一小学校は、以前から複式学級であるが、人数が3倍にも増えるということの理由が分かれば教えてほしい。南中学校に統合した場合に、6kmまでは歩いて通学となるようだが、十日町橋を渡って学校へ通うことと、川西中が100人規模で川を渡って統合することに、人数あわせとしか思えず疑問に思う。スクールバスは運行しないのかどうかを答えてほしい。 [答] 大規模校と小規模校のいじめの発生率については、学力と同じように特段大きな差があるとは思っていない。詳しく調べてみたいと思うが、各種報告などからの感覚ではそう思う。飛渡第一小学校の児童数が増えていることについては、市外から転入された方があり、出産されていると思われる。南中学校の通学について、6kmという基準があるが通学路の中に危険箇所、例えば冬期間の十日町橋などの条件がある場合には、スクールバスを運行しなければならないと思う。 ⑧ 統合した場合に、小規模校からの生徒に対するいじめの確率がどうなのか、考えてほしい。 [答] 小規模の学校が大規模の学校に統合して、小規模の学校の生徒がいじめられたということについては、直近では倉俣小学校が田沢小学校に統合したけれども、統合を原因とするいじめは承知していない。 ⑨ 方針の説明を聞き、今までの経過からとても容認できない。地域が困惑し不安を抱いている。第1次方針の際にも吉田の子どもたちの教育環境がどうあるべきかを中心に議論し、アンケートで地区民の声を把握した。教育は、学校だけでなく家庭と地域社会が一体となって進めないと良い教育はできないと思う。第2次で中学校の方針を示されたが、拙速すぎるのではないか。説明会を開き色々な声を聞く中でどう考えているか。色々な形で時間をかけて方向性を考えるべきではないか。第1次方針の小学校がまだ曖昧な中で、第2次の方針が示されたことに憤りを感じている。平成27年に小中一貫教育を進める決断をして対応してきた。市の総合計画でも学力の向上、不登校の減少を掲げているが、小中一貫教育が置き去りになっているのではないか。吉田地区自治振興会では、小中一貫教育の学校を吉田中学校に設置するよう要望しており、市が進める計画に沿って筋が通っていると思う。小中一貫校のまつのやま学園だけ方針から対象外として、他の地区では小中一貫校が認められないのか。小中一貫教育が、学校統合によって置き去りになっているように思われるので説明してほしい。 [答] 確かに子どもたちの学ぶ環境は、学校だけでなく家庭や地域が一体となって行うというのはその通りだと思う。第2次方針では、中学校の統合が検討委員会で議論された中では、令和5年度を目標としていた。昨年12月の中旬に新聞報道された後、地域の皆さんに不安を与えてしまったため、教育委員会としては地域の皆さんに考えていただく時間を確保するため令和10年度を目標に再設定した。小中一貫教育につ
---------------	--

（吉田地区）	いては、平成 23 年度から始まり、4 つの中学校区で 3 年間の試行を行い、26 年度から全中学校区で取り組み、当地区では吉田中学校と吉田小学校、鑑島小学校の 3 校の枠組みである。課題となったのは、東小学校から卒業する子どもが十日町中学校と中条中学校に別れるため、一つの中学校を中心に小学校を抱えることができなくて、十日町中と中条中の 2 校を中心に拡大中学校区として、十日町小学校、東小学校、中条小学校、飛渡第一小学校の 4 校と小中一貫教育を進めている。小中一貫教育は、一つの館の中あるいは隣接した形で小学校・中学校の教育を行うばかりでなく、離れた場所であっても授業の統一性など、小学校 6 年生が中学 1 年生になったときのギャップが少なくなるよう、色々な取り組みをしている。まつのやま学園は、松之山中学校の老朽化による建て替えという背景があり、地域では建て替える場所等を検討した中で、最終的に今の松之山小学校に併設という判断となった。なぜまつのやま学園だけ別に考えているのかというと、平成 29 年に開設して間もないことと、地理的な条件が大きな理由である。松之山地域の浦田地区の子どもを十日町地域に連れてくるには、1 時間以上掛かることが考えられる。国の定めた基準では、交通機関を利用してもおおむね 1 時間となっている。松之山地域の皆さんも、今の状況をこれで良いと思っているわけではなく、令和 12 年度、13 年度には中学校が複式学級になってしまうので困っている。松之山地域では、山村留学として都会の子どもを学ばせた経過がある。将来的には、改めて山村留学のようなものを検討しながら、子どもたちの数を増やさなければならないとの意見もあった。 ⑩ まつのやま学園ができたのなら、吉田地区の要望も叶えられるのではないかと。学校統合は、数の論理で進めるべきではないと思う。吉田地区では、平成 12 年か 13 年に名ヶ山小学校が吉田小学校に統合された。平成 13 年か 14 年に真田小学校が鑑島小学校に統合され、学校統合がなされると地域にプラスにはならない。地区民の皆さんは、学校が拠り所であり、学校を家庭と地域が支えていくことが望ましい。学校統合に地域づくりがどのように議論されてきたのか。それと義務教育学校を提案したい。また特認校の制度で吉田中学校を蘇らせるような方策を教育委員会から再考してほしい。吉田クロスカントリーコースが隣接しているので、子どもたちが集結するような方策を取って、学校が地域の活性化につながるような方向に導いてほしい。 [答] 子どもたちの数が少なくなる中でどうするかを検討委員会で議論した。地域づくりに対する発言もあったが、それが大きな議論の輪にはならなかった。学校が地域の拠り所であることはわかるが、子どもたちの学ぶ環境を考える中で、これまでに学校統合された地域では、苦渋の決断をされてきたと思う。義務教育学校については、小中一貫教育の一つの形態である。新潟県内では、三条市の大崎学園だけが義務教育学校である。学校規模としては、各学年 3 学級ずつ 9 学年で約 800 人規模である。義務教育学校は、ある程度の規模が必要だと思う。第 1 次方針の期間中に、耐震化等の大規模な施設改修が完了しているという背景の中で、第 2 次方針では大規模な改修が不要な範囲での計画とした。今まで学校関係には大きな金額を財政局から投資していただいたが、遅れがちになった公民館や社会教育施設などで大規模改修を待っているという背景があるので、学校に対する投資は一呼吸置きながらと思っている。なお、近年非常に気温が高く、子
---------------	---

(吉田地区)	どもの学ぶ環境に相応しくないとのことで、国の支援を受け全ての普通教室に今年の5月までに冷房を設置した。そういう命に関わるものについては、積極的に対応する。特認校については、まつのやま学園が市内どこからでも通うことができる。改めて検討しなければならない課題ではないかと思う。 ⑪ 子どもの学校の話だけでなく、吉田地域をどうしたいのかという明るいビジョンがまったく見えない。学校を統合する裏で、生活圏が無くなっていく。教育環境が無いところで子育てしようと思う人は居ない。文化ホールなどの箱物を作っているが、子どもたちの教育にお金をかけられないところで、納得して子どもを生んで育てようと思うのか。同じようなところをいろいろ視察して、成功例や失敗例を見ていると思う。減ってきたら集約していくのではなく、これからの時代はもっと柔軟に考えて、方法はあると思う。川の西側に学校が無くなれば、若い人は、教育環境があるところへ移ることは間違いない。地域には家がどんどん減って生活圏が成り立たなくなる。例えば、クロカンコースもあるので老朽化している陸上競技場を川西側へ新たに作り、道路を整備し住宅環境を作り、働く場所を作るなど、魅力ある政策ができないか。十日町市モデルとして教育にお金をかけて、外から若い人がここに住みたいと思うような先手を打った政策を新しい発想で提案してほしい。複式学級の鑑島小と吉田小の統合は、個人的には了解するが、その先の吉田中学校が知らないうちに、南中学校に統合されてしまうのが心配である。山間地の過疎化と同じように吉田に若い人が居なくなるのではないかという不安がある。これまでの投資は有難いと思うが、それで終わらないように、学校もある中でここに住んでこの地域を守りたいと繋がるプランを市に提案してほしい。 [答] そういうことは、行政として常々研究しなければならないと思っている。知らないうちに学校が統合されることは決して無い。地域の皆さんのお気持ちが最優先されると思っている。総合計画の中に地域別の振興策があり、それを尊重しながら行政が運営されている。改めて人口の減少や子どもの数が少なくなってきた時代の地域振興策について、色々な場面で議論していかなければならないと感じている。地域の皆さんから積極的に声を上げていただきたいと思う。 ⑫ 今年度から10年間の計画がスタートしたということであるが、10年間地域が答えを出さなかったらどうなるのか。また、その先はどうなるのか。 [答] 統合は進められないと思っている。その先は、この計画の範囲ではないが、さらに少子化が進む可能性があると思う。 ⑬ 県立高校であれば、県の決裁権の元で統廃合を地元住民の声を聞かずに進めると思うが、小中学校については、地元振興会の答えが無ければ、10年、20年経っても、統合はしないのか。 [答] 十日町市地域自治推進条例に、公の施設、例えば学校やクロスカントリースキーコース、ふれあいスポーツセンターなどを設置・廃止する時は、吉田地区自治振興会の意見を聞かなければならないとなっている。地元が納得しなければ廃止ができないという条例である。 ⑭ もし地域から答えが無ければ、第3次の計画でまた10年後となる可能性があるのか。 [答] その可能性はある。
--------	---

⑮ 学校施設の長寿命化計画に、学校を建築してから20年経ったら改修する。40年経ったら建て直しをしなければいけないと記載がある。40年を見たときに540億円くらい掛かるということで、非常に難しいと書いてあったが、10年後にはどこの学校も建て替えが始まる計画になっている。学校統廃合で、吉田中学校の場所が小さいから生徒が入らない、ということが成立しなくなる計画が挙げられている。市は、吉田地域の教育環境を新しいものとして考え、他の地域と特色を変えて、吉田だけは違う学校施設を作るという計画を考える道はあるのか。それはせず、地域が考えて地域が作り上げて、理に適った計画が出てくれば教育委員会として受け取るということか。

[答] 長寿命化計画については、国の補助を受けながら事業を行っている。今までは建築から40年50年で老朽化が進み改築となると、国は補助金が多くなり困る。学校施設を長く使うために、少しずつ手入れをしながら長く使うようにという国の方針であり、長寿命化計画を策定しないと大規模改修などの補助金を受けられないということになる。耐震化改修は済んでいるが、この先強度が保てないことになれば、改修が必要になってくる。

⑯ 子どもが少なくなったから統廃合が進むということと、学力の向上と不登校児童の減少を市としては大事にしていると思う。その3つが守られて伸びていくのであれば、学校を残すことになるのか。

[答] 全体的な目標の中で、小中一貫教育に取り組む上での課題は、学力の向上、いじめ不登校の解消、特別支援教育の充実ということである。中学校については、学力が全国平均並みに上がってきた。不登校についても、一昨年までは県内の悪い方であったが、去年は改善して現在も良くなってきている。そのことだけを捉えて学校の存続という議論にはならないと思う。

⑰ 十日町市の教育の未来像というのは、各地域から意見が挙げられていると思うが、行政として目に見えるものとして予算付けをして形にするよう進むのか。ただ聞き取るだけで進まないが、地域から計画が挙げれば市議会などで協議する流れを作っていただけるのか。

[答] 今は、学区の適正化の方針について、まだ説明会の途中である。一通り説明会をしてから教育委員会としての総括として、意見やアイデアについて検討しなければならないと思う。この方針を定めたから、100%この通りということではなく、より良いアイデアがあればそれを進める可能性もあると考えている。

⑱ そのアイデアというのは、吉田地区自治振興会など色々な組織がある中で、地域に学校を残すためにどうしたらいいかを考えて、子どもたちが増えるにはどうしたらいいか、学力向上のために地域がどうサポートしたらいいかなど、総合計画に合わせて地域が行政に提出したら、それを受け止めてもらえるのか。

[答] 地域での議論は、色々なアイデアを持ち寄りながら検討してほしいと思う。教育委員会として求める一つの基準として、小学校では複式学級を解消したい。中学校については、1学年2学級の学校にしたいという基本線があると思っている。また、地域で議論がまとまったということであれば、それとは別に話を伺いたいと思う。

⑲ 昨年、鑑島小学校と吉田小学校のPTAの皆さんが真剣に議論して、小中一貫で中学校に併設するという

(吉田地区)	答えが出ているので、地域の先輩の皆さんや振興会の皆さんが、その環境をどう守っていくのかを明確にして、吉田地区で行政に計画を提出すれば、改めて受け取ってもらえるのか。 [答] ご要望は見させていただくが、それが実現するかどうかは未知数だと思う。一つの基準として方針を示していることと、教育施設に投資をということには、限られた財源であり、学校の耐震化が終了した後は社会教育にも目配りしなければならない。この先10年の間は、生命に関わるもの以外の大きな投資は難しいと感じている。 ㊫ 小中一貫校ができないのであれば、一刻も早く統合を親としては希望する。今年、小学校と中学校の体育祭を見て、この人数では限度があると思う。以前に比べ盛り上がりもなく、子どもたちに競争心が無くなってきているのが明らかにわかるので、統合には賛成である。市に対してこうしてほしいと意見があるが、地域の皆さんが学校を残したいというのであれば、学校の行事に参加するなど盛り上げる方法があるのではないか。地域の力が、小学校、中学校をもう少し支えないと、市が吉田に建物を建てたところで移り住んでくる人は少ないように思う。行事や大会があっても、保護者や区長さんは見に来ているが、子どもがいない世帯は、足が遠のいているように思う。中学校については、川を渡るより隣の川西中と統合を視野に入れてほしい。6km未満はスクールバスを運行できないと言われたが、子どもの安全第一でスクールバスでの送迎を配慮してほしい。小学校では、鑑島小学校と吉田小学校の統合で、吉田小学校に統合とあるが、鑑島小学校へ統合という考えは無いのか。 [答] 運動会に行ってみると、もう少し大人数の中で競い合う場があれば良いと感じている。南中ではなく、もし川西中と吉田中の統合ということになった場合、この方針にはその考え方は無いが、冬期間歩いて橋を渡るのは危険という話をした。川西中までの間も田原が危険ということであれば、スクールバスの検討が必要であると思う。吉田小の方が比較的新しいという背景があり、方針では提案している。地域の皆さんが、鑑島小ということであれば、改めて検討したいと思う。保護者の皆さんから、未就学児の保護者も含めて色々な議論をしていただければ有難い。また、地域の皆さんを交えながら、話し合いがあれば良いと思う。 ㊬ 小中一貫教育が、今は子どもが歩いて通える範囲に小中学校3校あるが、教員は苦勞しているように見える。遠くなれば尚更ではないか。中学校で松代から南中へ通うのに、片道30分、往復1時間で、基準のぎりぎりですぐにできるのか。いじめ、不登校、中1ギャップの解消があるが、自分が高校で初めて45人の教室に入り大勢の中で不安があった。吉田小、鑑島小という小規模校から中1で南中の大きな学校へ入って、本当に大丈夫なのかと思った。まとめとして梓の中に、「ふるさと十日町市を愛し」とあるが、吉田地区としてみれば「ふるさと吉田を愛し」に変わらと思う。私の主張で、今回吉田中の生徒が吉田最高大好きということで吉中便りに載っている。地域と保護者の方が育てた人間教育の形がここに載っていると思うのでぜひ読んでほしい。返答は要りません。 [答] ご発言ありがとうございます。 ㊭ 吉田小学校に統合ということだが、鑑島小学校には学童施設がある。吉田小学校にはないので、学童施設
--------	---

(吉田地区)			を設ける前提で統合を考えているのか。 [答] 鑑島小学校に放課後児童クラブを作ったのが、3、4年くらい前であるが、その際に吉田小学校区の皆さんに照会をしているが、放課後児童クラブを作る要望は無かったのではないかと思います。要望があれば、設置については積極的に考えなければならないと思っている。 ㊸ 方針の決定した際の教育委員の意見は、資料に載らないのか。川西地区に中学校がないということは、十日町橋の傷みが激しく限界がきている中で、妻有大橋も孫左エ門橋の手前が崩れかけているため、災害が起きると十日町橋も妻有大橋も通れないことになる。川で分断される状況が考えられる。松代中、松之山中、川西中、吉田中をひとつに統合し、吉田に1校残さないとバランスが取れないのではないのかという考え方がある。クロスカントリーコースを決めたときに、私の住宅の敷地内に測量の杭を打たせてほしいと言われ、図面を見たら住宅がコースになっていた。地元の人にしっかり説明しないで、何かを始めるのは絶対に許せない。川西側から中学校を無くすのであれば川西側の人に全部説明してから学区再編をしてほしい。学区適正化方針を決定した際の会議録を示してほしい。また、川西側に中学校を無くしても良いと判断した蔵品教育長の考えをお聞きたい。 [答] 昨年の7月3日から学区適正化検討委員会としてPTA会長など市民の皆さんの16人で今年の3月11日まで議論していただいた。私は、検討をお願いした立場であり反対する立場に無い、結論について最大限尊重したものである。教育委員会の議事録は、市のホームページの教育委員会の項目に、毎月の教育委員会の議事録を公開している。川西庁舎の教育委員会にお越しいただけるようなら議事録を閲覧いただけると思う。 ㊹ 吉田地区では、市議会議員が今は居ないが、市議会へ吉田地区の意見が通るのか。 [答] 市議会議員の皆様の議会活動の中で、意見を通されるのではないかと思います。
	高山地区	日時 10月25日(金) 19:00~20:00 会場 高山コミュニティセンター 対象 高山地区振興会 (嘱託員、組長含む)	㊶ 少子化は難しい問題と思う。説明の、一定の人数がいた方が充実するということと、各地域の特色を出すということが、相反しているのではないかと感じた。また、一定規模でないと教員の確保が難しいとのことだが、インターネットの活用や、部活については、水泳などは学校名での参加も見られないようだし、学校単位の参加でなく、地域のクラブでの参加にするなどはどうか。 [答] 学校の統合によりエリアが広くなり、地域との接点が少なくなり特色化が難しいのではないのかということについては、市ではふるさと教育、ふるさと学習のための冊子を印刷し、小学5年生から中学3年生ま

(高山地区)	人数	60 人	で活用している。一例として、松代地域の孟地小が松代小へ統合した際、孟地小の卒業証書を伊沢和紙で作る伝統を引き継いだ例もある。地域の良さを学校の中で学びながら地域の支えになってほしいと考えているが、学校教育だけでは限界もあり、集落の祭りなど地域や家庭、保護者からも頑張っていただきたいと感じている。中学校の部活の関係では、先生方の負担がかなり大きい現状があり、先生方の多忙化解消の観点から、また、これからは全国的な方向としても、国の支援も必要だが、徐々に社会体育で受けとめられないか、期待しているところである。 ② なぜ統合しなければならないか、至った経緯をお聞きしたい。 [答] 学区の適正化については、子ども達の数が非常に減ってきていることからである。県下でも資料にあるように、十日町市は小規模になっている。学級数が少ないと正規の先生の配置が少ない。当地域は、経験の浅い先生方も多い。学級数が多ければ多くの先生の人数が確保でき、バランスのとれた配置がしやすくなる。部活動の選択についても、希望する種目がなく悩みであるという話も聞いている。また、実態として学校規模により学力的に大きな差はないが、小さな学校ほど先生が苦勞しているという部分もあり、小規模校では学校運営の安定性という面でも難しいところがある。学級数が増えることで、子ども達の学ぶ環境として可能性が広がるものと捉えている。 ③ なぜ統合しなければならないかは、IターンやUターンをする人達に働き場所がないことが根本の原因なのではないか。また、以前テレビ番組で、栗島が都会から子どもを呼びいれて独特な学校運営を行っているといった。 [答] 人口については、出生、死亡の自然増減ではかなりの人口減少となっているが、転入、転出の社会増減においては以前よりも減少が抑えられている傾向が見られており、Iターン、Uターンによる若い人の転入も目立ってきている印象である。子ども達へのキャリア教育にも力を入れており、地元で学んで、一旦都会へ出たとしてもUターンして地元に戻ってきたり、高校を卒業して、直接地元就職するなどの傾向も見えてきていると感じているところである。また、栗島のお話があったが、当市でも小中一貫校としてスタートしたまつのやま学園については、今回の方針では再編対象外としたが、人数が減っていくことは地域でも大きな悩みであり、松之山地域の振興会理事会では、合併前に行っていた山村留学という制度で、都会からの子ども達を受け入れることで人数を増やせないか、また改めて検討したいというようなご意見もあったところである。 ④ 要望として、先生や支援員が不足している現状から、保護者として、きちんと配置をしていただきたい。 [答] 先生方の配置については、県からの配置であるため、県に対して人事要望を繰り返している。最近では、特別支援学級への配置は拡大傾向にある。また、教員を目指す学生の動きが弱くなってきており、昨年は競争率もかなり下がって、新しい人材が入りにくいという背景もあるようだ。市単独で配置している支援員についても、なり手が十分でなく、予算はあるが人材確保がきびしい状況にあり、引き続き、支援員の確保にも努めていく。
--------	----	------	--

中 条 飛 渡 地 区	日時	10月30日（水） 19：00～20：40	① 何で川西地域の子どもたちがこちらに来ることになるのか。妻有大橋又は栄橋を通るにも遠い。吉田地区と一緒にの方がいいのではないか。 [答] 例えば、川西の上野の交差点から中条中学校まで、車で実際に走ったところ、栄橋経由でも妻有大橋経由でもおよそ12分で到着できる。なぜ川西地域に中学校を計画できないのかについては、川西地域の説明会などでご意見を頂いている。検討委員会でも川西中に寄せられないのかという意見があった。川西中については、6学級の規模で、特別支援学級は2学級分しかないということで、吉田中と松代中を寄せるとなると、9学級分の容量があれば受けとめができるのだが、容量が足りないという事情がある。地域的な連坦という部分で、松代中、吉田中、南中については、国道253号沿いにあるというイメージである。川を越えて通っていることについては、例えば姿橋を渡って水沢小学校へ行ったり、水沢中学校へ行ったりしている。中里中学校では、宮中橋を渡って通っているということである。 ② 令和10年度を目指すのであれば、その頃中学生になる保育園の保護者からも、意見を聞いたほうが良いと思う。今の小学校、中学校の保護者はその頃には、大半の人の子どもが中学校を卒業していると思う。 [答] これまでの説明会の中では、小学校の複式の解消については未就学児の保護者の皆さんからもお集まりいただいている。今回は、在籍している保護者の皆さんを対象にしているが、一般市民を対象とした説明会には、未就学児の保護者の皆様も参加できるので、関心を持って参加いただければ有難い。説明会については、この地域の未就学児の保護者からご要望があれば、どこでも伺って説明させていただく考えである。 ③ 東小の子どもたちが、全部十日町中に進学するという方針であるが、仮に東小が十日町中に行き、下条中が中条中に統合しない場合、下条中も中条中も1学年2学級以上の基本方針が崩れる。同じ歩調で進まないと、中条中学校の2学級を維持できない可能性が出るのではないか。もう1点、再編された場合に他の学校には学校名の検討とあり、十日町中学校だけが、学校名を検討されないのはなぜか。 [答] 教育委員会として、独断的に統合はできない条例の仕組みになっている。必ず地域の皆さんの合意をいただき統合となる。東小学校の大井田の子どもたちが中条中に来なくなり、下条中の子どもたちが中条中に統合しないとすると、おっしゃるとおりの心配がでると思う。できるだけ下条の皆さんには、ご理解を賜りたいということで説明に入りたいと思っている。東小学校の大井田地区の子どもたちの問題については、長い歴史の中でそのようなようになってきたものである。昭和22年に十日町中学校が、新座村の中にできたことから、新座村の子どもたちは十日町中学校に行った。今から40数年前頃に、新座小学校と大井田小学校が統合して東小学校ができた時点から、変則的な形ができたものである。検討委員会の中で東小学校の進学先をひとつにできないかという意見があり、このような記載になった。地域の皆さんの気持ちや学校を支えていただいている後援会の皆様、地域住民の皆様の声をどのような形でまとめることができるか、難しい問題があると思っているが、丁寧な説明を繰り返すしかないという覚悟でいる。下条中を中条中に統合と大井田地区の子どもたちが十日町中にいくことについての議論は、当然時間がかかると考えている。ご心配の件は十分理解している。学校名については、統合される学校にとっては大きな問題と考えて、学校名の検討と記
	会場	中条中学校ランチルーム	
	対象	中条小・中条中 ・学校運営協議会 ・保護者	
	人数	20人	

(中条飛渡地区)		載している。十日町中学校に東小学校の児童が進学することについては、学校名が大きな課題とは考えていないことからこのようにしている。東小学校の再編の話し合いの中で、学校名が課題として提起されるようなら、十日町中学校区の皆さんと議論しなければならないと思う。 ④ 仮に中学校が統合するときは、全学年が一気に統合するのか、または1年生から順次統合するのか。中学3年で突然統合することは、受験前の時期に学力の低下など懸念されるので心配である。地域の皆さんの合意があつてということは、どのようなことをもって合意となるのかわからない。アンケートなのか、話し合いを十分したのでこれでいいということになるのか。 [答] 統合の方法については、新1年生から新しい学校へ行く方法と一斉という方法があるけれども、地域の皆さんや保護者の皆さんの気持ちを確認しながら、ベストな方法を議論しなければならないと思う。合意については、最近の事例では、PTA会長と地域の代表者の連名で統合要望書を提出いただいている。地域の中でどのように議論するかについては、保護者の皆さんが統合のアンケートをとり、了解を得てから地域の皆様に説明して合意をいただいたという経過がある。やはり、最後まで反対される方は居るようで、地域の皆さんにとっては苦渋の決断というのが実態のようである。 ⑤ 小学校の統合は大変だが、中学校の統合はもっと大変だと思うので、地域の皆さんの気持ちを精査して進めてほしいと思う。 [答] 地域の子どもたちが少なくなっているという悩みは、日本全体の悩みであり新潟県全体の悩みでもある。令和元年度を迎えて、南魚沼市や阿賀町、村上市でも学校統合という連絡があつた。地域の皆さんのご理解をいただきながら、教育委員会が勝手に進めることはない。統合後も、広がった地域の皆さんから学校運営にご支援をいただきたいと思う。 ⑥ 今回の説明会は、中条中学校区の保護者に向けたものだと思うが、参加者が思いのほか少ない。これから該当する保護者に聞いてもらって意見を言ってもらいたいので、もう一度説明会をした方が良いのではないか。 [答] PTA会長さんと相談させていただき、要請があればいつでもどこでも説明に伺うつもりである。説明会を1回で良いというつもりはない。 ⑦ 中条小学校は校区が変わらないので、興味がある人と全く興味が無い人がいると思う。皆に話を聞かせるのであれば、PTA総会などの機会にお願いして話をすれば、もう少し色々な人の話が聞けるのではないか。東小学校が十日町中学校に行くことに抵抗があるのは、地域の人たちがほとんどだと思う。中条中学校の互親会は、大井田地区も含めた中で、子どもたちが学校に通っていない家庭まで会費を集めて、学校を支援していて、地域の学校という思いがある。中条小学校の保護者に説明するのであれば、中条小学校で集まる機会を狙ってする方が良いと思う。 [答] 改めてPTA会長さんや学校と相談させていただきたいと思う。 ⑧ 例えば、段階的に3年間で移行となると、後援会費は中条中と十日町中に重複して納めることになるの
-----------------	--	---

（中条飛渡地区）		か。 [答] 学校統合は、学校同士の調整が必要であるし、PTA同士また後援会同士の調整も必要だと思う。後援会費を重複して納めることにならないように、調整をお願いしたいと思う。 ⑨ この方針で進んだとして、中条中は様々な問題があると思う。他の校区では学校全体で統合となるので、いまほどの後援会費などの問題は発生しないと思う。中条中に限って、分けれるとか時間差をつけて統合するのか。地域が合意すれば統合は進むという中で、他では統合が進み、中条では統合が進まないことがあったとすると、教育の格差が生まれる懸念がある。そうならない努力をされるのか疑問である。また、下条中が統合しないとになったら、中条中全体が十日町中に統合する考え方もある。大井田地区の立場に立つと、あまりにも不透明で問題が多い。他の中学校区は全体が統合するものだが、中条中の場合は違うため、地域の皆さんに十分理解していただくようなスケジュールできちんと説明しないと、スムーズに進まないのではないか。時間がかかり過ぎて、この地域だけ教育環境の整備が遅れて、空白地域になるようなことは避けてほしい。なるべく発信をして、不公平感が無い統合スケジュールをお願いする。 [答] 子どもたちにより望ましい教育環境を整えるということで方針をたてたが、学校は教育環境だけでなく、地域振興にも大きな影響があるという、地域住民の皆さんの気持ちだと思っている。地域の皆さんの支援が無ければ、学校運営がうまくできない時代である。住民感情という部分では、どうぞ理解いただくか大変難しいと思うが、教育委員会としてできるだけ努力を繰り返していくという姿勢で、これからも進みたいと思っている。 ⑩ 中条地域は先進地ということで、文科省から表彰されたりしている。公民館の力も必要だが、職員が減らされて困っている。コミュニティ・スクールを推進するのであれば、公民館の職員を減らさないようにしてほしい。川西中の子どもたちがこちらに来るのは、先般の大水を見ると栄橋などは怖いと感じたので反対である。新しく十日町中学校を作り、そこに皆統合するなら下条中もまとまるかも知れないが、中途半端に統合して、北中学校などとならないようにしてほしい。 [答] 昨年、公民館の職員減が決まったわけだが、改めて今、令和の時代の公民館がどうあるべきかという議論を進めている最中である。この度の大水で、栄橋も妻有大橋も初めて見るような水量であった。この方針については、絶対にやるということではなく、小学校は複式の解消、中学校は1学年2学級というものを1つの基準としながら、より良いアイデアがあれば検討したいという姿勢である。来年の春ごろには総括していきたい。只今のご意見についても、色々なところで伺うものであるため、改めて検討しなければならない課題の1つであると感じている。 ⑪ よりよいアイデアがあればという話であるが、地域でまとめた形で提案するのか、個人的に提案できるのか。 [答] この説明会の中での発言でも、個人としての考え方でも話を伺えれば有難い。教育総務課に伝えていただきたい。
-----------------	--	--

(中条飛渡地区)		⑫ 10年後を目標というのであれば、平等な計画となるように、松之山を特別扱いはやめたほうが良いと思う。今は新しい校舎で開校したばかりであっても、同様に並べて考えるべきだと思う。 [答] まつのやま学園については、松之山中学校が老朽化してどこに建てるかについて、色々な意見があり最終的には松之山小学校に併設して、小中一貫校という取り組みを始めたわけである。松之山地域が一番遠い地域ということから、通学に時間がかかるという地理的な条件があり、統合を進めるとなると寄宿舎の準備が必要ではないかと考える。令和12年度13年度になると中学校が複式になってしまうという推計が出ている。地域の皆さんも危機感があり、合併前の松之山町で山村留学という制度があって、都会の子どもたちを連れてきて学ばせ、人数を確保したということがあった。それについて改めて地元の方が検討したいと言われており、その取り組みを教育委員会としても注目している。 ⑬ 山村留学は、中条中学校が取り組んでも良いのか。 [答] 地域の皆さんが、そうしたいという事であれば、この地域の子どもたちが増えることであり、教育委員会として何ができるかわからないが、支援させていただきたいと思う。 ⑭ 子どものためということで、適正化になった時には良いことだと感じる。反面、弊害になってくるのが親や地域だと思う。親が考えるのは、どうやって通学するとか、体操着を買い替えるとか、心配要素を全部解消するのも難しいと思う。その中で心配されている親の人数が多いものが、優先順位が高いと思う。地域は地域で心配要素の優先順位が出てくると思う。教育委員会として、その優先順位が高い心配要素を解決することによって、上手く進むのではないかと考える。早期に進める参考にしてほしい。 [答] 質問に体操着のことがあったが、Q&Aに記載しており、補助する制度がある。その他いろいろな心配があると思う。説明会ではスクールバスの利用などの声も聴いているところで、一定の基準に照らし合わせながら、ご理解をいただき市全体のスクールバスを運行している。心配なことについては、できるだけ少なくなるように、またご理解いただけるよう努力を惜しまないつもりでいる。 ⑮ バス通学になった場合、中条中学校の出入口である校門や玄関前が狭いので、バスが各方面から一気に来た時にはどうにもならない状態になると思う。統合要望があって、統合までに学校の校庭や駐車場等の改修ができるのかどうか。 [答] 今のご質問については、課題と思っており、検討の議論を深めていきたいと考えている。
-----------------	--	---

【中里地域】

	日時、会場等		主な意見等
中里地区	日時	10月28日（月） 19：00～21：30	① 中里地域再編資料の田沢小と貝野小が統合した場合の児童数の欄で、令和2年の2年生が39人で2学級なのに3年生でも同じ人数なのに学年が上がると1学級になるのはなぜか。
	会場	中里支所	[答] 方針の冊子15ページから16ページに新潟県の学級編成の基準を載せている。1・2学年については、32人を超えると2学級になる。3学年以上では、40人学級で40人を超えると2学級になる。同じ人数でも、2学年以下と3学年以上で学級数が変わることになる。
	対象	地域住民	② 教育委員会としては、この方針で進めるので理解と協力をお願いするという説明会なのか、こういう考え方を地域に投げかけるたたき台として、皆でしっかり考えていこうという説明会と捉えていいのか。
	人数	60人	[答] 各地域で説明会には色々なご心配の声を聞く。この方針は、検討委員会の皆さんにしっかり議論していただいたものであり、この方針に基づいて進められるよう各地域で説明しているが、小学校は1学年1学級以上、中学校は1学年2学級以上の基準の中で、より良いアイデアがあれば耳を傾けたいという姿勢である。 ③ 最終的には住民の皆さんの理解を得なければならないけれど、資料の令和元年度説明会日程は令和元年度のみと考えて良いのか。理解を得るためには、毎年説明会を行うのか。住民の理解を得るには色々な方法があると思うが、アンケートなどの方法を考えていないのか。 [答] 説明会については、中里地域まちづくり協議会様と相談しながら私どもが積極的に企画しており、例えば保護者の皆さんがもう少し話を聞きたいとか、保護者の皆さんが地域に話しをする場に教育委員会にも来てほしいとなれば、要請によって伺い色々な話をさせていただくつもりである。今年度に限ったものではないが、要請にこたえながら地域に入り説明申し上げたい。アンケートについては、教育委員会として考えていない。地域の皆さんが話し合う中で、地域全体の意向がどうなのか確認するために、例えば保護者に対するアンケートや地域全体に対するアンケートを行うことは、地域の動きの中ではあると思う。 ④ 自分が田沢小学校の時に同学年が42、43人であり、そのため1学級であった。前後の学年は2学級作れたが、人数の多い1学級であった。この方針では40人を基準として、それ以上は2学級としているが、もっと柔軟に考えて、40人に近ければ2学級にしても良いのではないか。 [答] 学校現場でもできるだけ少人数の中で授業ができないかということで、算数や国語では少人数学習という方法を行っている。学級数で教諭の配当が決まるため、県の人件費負担で教職員が配置される。各学校で特別な課題があれば、加配教員が配置されることもある。そうなれば少人数の学級も可能になるが、各学校が与えられた人数の中で最大限の努力をしながら教育活動をしている。 ⑤ 中学校が統合で中里地域から無くなる。地域の象徴的なものがどんどん無くなっていく。学校がどういう役割を果たしているかと考えると、学びの場であることはもちろん、人をつなぎとめる役割を担っている。

(中里地区)		学校が無くなると人がここに住もうと思わなくなるのではないか。人口減少と高齢化と共に学校統合は全国的な課題になっていると思うので調べてみたが、地域がどうなるのかについて一切触れていない。子どもたちが少なくなることと学級数にこだわった方針の内容になっているが、統合して無くなる方と統合される方の地域では意識がぜんぜん違うと思う。地域活性化と学校統合が、一緒に進められていることをどう考えているのか。統合問題は、地域を活性化する最後のチャンスのような気がしている。合意形成をどのように収束させるのか聞きたい。水沢中学校に中里中学校が統合する提案となっているが、水沢中学校のグラウンドの背後に溪流があり、土砂災害警戒区域になっている。校舎は災害発生に対する避難計画をたてるのが法律により義務付けられている。また、水沢中学校が避難所になっている。そういうことも検討されているのか。 [答] 学区適正化の検討については、子どもたちの学ぶ環境を第一に考えるということで、教育委員会が諮問して答申を受けたという経緯がある。議論の中では地域のことも話題になったが、全体として大きな話題にはならなかった。地域振興については、教育委員会だけで受け止めるのではなく、市全体の課題と思っている。統合が進む段階の中で、地域振興がどうあるべきかを市全体で考えなければならないと思っている。水沢中学校が、土砂災害警戒区域であり避難所にもなっていることについては、防災安全課の所管なので、土砂災害警戒区域の意味と避難所に指定されているその意味を確認する。 ⑥ 市の総合的な考えはどこで聞いたらいいか。 [答] 説明会での質疑については、1ヶ月ごとにまとめて市のホームページで公開し、職員にわかるように課長会議で報告し、これまでの意見を共有している。もう少しで9月分を公開できるよう準備している。 ⑦ 旧十日町市内の中学校に統合される。周辺部は過疎化が進んでいるので、学校があればまだ残る人もあるが、子どもの教育のために中心部へ移ってさらに過疎化が進むように思う。コミュニティ・スクールが進められているが、地域との関わりを大事にしながら進められるものと思う。商店が無くなり、病院が無くなり、いずれ駐在所も無くなると思うと、地域に元気が無くなるのではないか。その中で数合わせの統合が進められて良いのか。中里中学校は学力について頑張っており成果を挙げてきている。2年前までは不登校の生徒が全校の10%近く居たようだが、昨年からは今年からは不登校が無くなってきている。親とすると学力の高い学校やいじめ不登校の無い学校へ通わせたいと思うだろうから、水沢中学校はどうなのか検討されたのか。水沢中学校の敷地は借地と聞いた。中里中学校は市の所有地である。厳しい財政状況の中で多額の借地料を毎年支払い続けることについて、中里中学校に統合した方が財政的に楽になるのではないか。 [答] 学校運営は、地域の皆様のお力をお借りしながら運営しているというのが実態である。統合により学区が広がった中でも同様で、コミュニティ・スクールについても地域の皆様のお力をお借りして、取り組みを進めており、これからも同じ考え方でいきたいと考えている。エリアが広がれば地域との密接度が薄くなる可能性があるが、地域の皆さんから特段のご協力を賜りたいと思っている。学校の子どもたちは、毎年入れ替わっているため、その年により波があり良いときがありまた悪いときもある。如何に学校を安定的に良
---------------	--	---

（中里地区）		い状況に保っているかが大事なことである。仮に統合になった場合には、中里中の生徒が水沢中に飲み込まれるのではなく、統合された学校の校風を自分たちでどう作っていくか。中里中学校で築き上げた校風を持ち込んで頑張るというような気概があると良いと感じている。中学校の不登校については、一昨年は市全体で4%を越える不登校率であったが、昨年は2.89%で県内の平均程度に落ち着いてきた。教育委員会の教育相談の担当と学校現場の教員の必死の努力によるものである。いじめ不登校については、さらに少なくなるよう努力していきたい。水沢中学校の借地料については、800万円程度の毎年の借地料になっており、教育委員会としても大きな課題と考えている。学区適正化検討委員会の皆さんには、借地の資料を渡さずに議論いただいた経緯がある。なぜ水沢中学校に統合するのかは、水沢中学校が平成元年に建設されて新しいことと給食のセンター化を進めていることから受け入れの施設が整っているということである。通学距離については、徒歩で6km、1時間という基準がある。スクールバスを利用した場合でも、1時間が目安になり、スクールバスに乗る子どもの数が大きな要素であると思う。中里中学校の生徒数は、市町村合併当時は220人程度あったがその後の減少率が大きく、現在はあまり差が出ていないが将来的には人数が少なくなるのではないかと思う。子どもの数が少なければ、スクールバスでの通学がしやすいという背景がある。水沢中の借地については、大きな面積であるためグラウンドの一部を借地返還することを検討しても良いと思う。借地が無ければ開校できなかったものであり、地権者様には大変お世話になっているが、これからを考えて購入を検討しながら毎年の負担を少なくしたいと考えている。 ⑧ 学校給食のセンター化が統合と密接に結びついている。自校方式とセンター方式では、それぞれにメリット・デメリットがあり、設置者の判断により選択することになっており、十日町市ではセンター方式を採用していると思う。また食育を推進しなければならない意義は、自然の恩恵を受け、様々な人たちの支えによってできている。学校給食の場で児童がそれをしっかりと感謝の念を抱くようにということである。子どもたちが食に関する理解と判断力を養う上では、私は自校方式が望ましいのではないかと考えている。政府から示された方針、理念に基づいてどのように考えているか。 [答] 子どもたちには地産地消の取り組みの中で、地域の皆さんが作った野菜などを頂いているということに感謝しながら給食を食べてほしいと、学校及び栄養士を通じ指導させてもらっている。地産地消を進める意義については、子どもたちに対することと農業者に対する収入の確保もある。例えば、規格外の野菜は値が付かないが、当方としては安く仕入れ、生産者は収入になるというメリットがある。夏の給食がない時期に調理員がその野菜をカットし、冷凍保存しながら給食に供給する取り組みを昨年度から始めた。子どもたちについては、給食を通じて心と体を育んでいるという意義あるもので、偏食を減らしたいということもある。アレルギーを持つ子どもについて、どういうアレルギーを持っているかしっかり把握しながら、毎日給食を提供している現状である。法律については、その枠の中で執行しなければならないと考える。 ⑨ 給食の2つの方式では、経済的な面と調理員の顔が見えるというメリットがあるという認識で良いか。 [答] 自校方式では、調理員の顔が見えるということだと思うが、今の調理室は隔離されており、雑菌が入ら
---------------	--	---

（中里地区）		ないような仕組みの中で調理されている。センター化を進める背景については、調理員の確保がある。小さな調理場では2人で調理しており、代替の調理員の確保が難しいという実態がある。体調や様々な事情で休みたいということがあるが、代わりの調理員の確保ができず、学校教育課の栄養士が調理室に入ることになる。栄養士からは、本来の業務が進まないという話を聞いている。給食業務を安定的にするには、ある程度の人数のセンター方式の中で行うことが、私どもにとってはありがたいという認識である。 ⑩ 調理室は菌をシャットアウトするため、子どもたちと触れ合うことが無いということだが、調理員と子どもたちと生産者や業者が年に1回交流する場がある。深い関係を持つことができると思う。自校方式とセンター方式について検討された内容を教えてほしい。 [答] 学校教育課が給食の業務を主管しているので、検討してきた結果と受け止めている。また、栄養士から時々現場に入らなくてはならない実態があるということで、安定的な給食業務をするためにセンター化を進めてほしいというのが現場の声である。 ⑪ 仮に水沢中学校に統合した場合に、水沢に給食センターがある。中里中では、地元の商店が食材を納めている。中里地域の商店への影響と経済的な問題をどのように考えているのか。 [答] 給食センターは、水沢小学校に併設している。業者からの物資の納品の方法については、給食業務が水沢に移ったから全ての納入を無くすということにはならないとは思っている。適正な契約には色々な方法があると思う。地域の農業者の皆さんからは、これからも引き続き野菜等を納品いただければありがたいと考えている。子どもたちと農業者とセンターの職員との交流会が、できなくなるわけではないと感じている。 ⑫ 全国的に見てもセンター化が進んでいるが、新潟県では五泉市が給食センターの施設老朽化に伴い、自校方式に切り替えている。五泉方式を検討された結果が今の提案と捉えて良いか。 [答] 五泉市が自校給食化を進めているという話を3年前くらいに聞いた覚えがある。県下の状況を見ると、それに追随して全て自校方式にしたという市があるかということについては、私の知識にはない。現状としてセンター化と自校方式を組み合わせながらやっているところが多いと認識している。 ⑬ 方針の22ページの中学校の再編に、水沢中と中里中の再編の備考だけに「水沢中は給食配送設備済」「学校建築年の新しい施設を使用」と書いてあるので、できている施設を活用したいのだと推測した。先ほどの質問のハザードマップを全く検討されていないようだが、命に関わる問題である。借地料も年800万円だと、10年で校舎が1つ建つのではないかと。令和12年度を見ると、水沢中より中里中の方が生徒数の減少が少ない。水沢中学校に統合しなくとも、安全で安心して登校できる中里中学校に統合してもいいのではないかと。これは、ハード面だけで判断されたのかお聞きしたい。 [答] ハード面ばかりではなく、市町村合併したときからの子どもたちの減少率を見ると、中里中学校区の方が減少率が高い。人数が少ないとマイクロバスでの輸送がしやすいということである。ハザードマップについては、危険ということであれば、避難所の設置はあり得ないと思うので、土砂災害警戒区域の意味、避
---	--	---

（中里地区）	難所を設置している意味を防災安全課に確認する。借地料は大きな課題であり、地主の皆さんがどのような判断をいただけるか、教育委員会として努力しなければならないと感じている。 ⑭ 学校は子どもたちのためだけでなく、地域の宝、地域の顔、ふるさとである。全国的に少子化の中で 30 人学級という声は出てこないのか。30 人学級にすれば統合しなくてもいいのではないのか。 [答] 国自体が 30 人学級という制度で、新潟県がその学級編成で良いとなることを望んでいる。 ⑮ 中学校で 1 学年 2 学級になると何が違うのか。主要 5 教科以外の音楽、美術、保体、技術家庭の教諭が確保されることになるというが、1 学年 3 学級なら主要 5 教科に 2 人ずつ教諭が配置されるので、かなり学力向上には良い環境となるだろう。しかし、主要 5 教科以外の教諭が 3 人増えることが、教育環境を整えることにどう結びつくのか。解決しなければならない課題の中に、教育支援員が不足しているとある。現場では教育支援員が確保できずに大変だと知り合いから聞いた。800 万円という借地料がなければ、地域の教育環境を整えられるのではないのか。服部勇馬選手がオリンピック出場内定した。その母校が無くなるということである。彼が日本を代表するアスリートになり、その出身ということで十日町市が取り上げられ有名になったと思う。検討委員会では話がなかっただろうが、今の状況ではどう考えられているか。 [答] 主要 5 教科以外の教科について、学校教育法の中で定められているものであり、学力や知識だけでなく人間力を育てるには情操教育も大切であるし、保健体育で体を作る。それを欠かせることはうまくないと思っている。教育支援員については、予算を 50 人分程度確保しているが人材が集まらないもので、年度当初は 6 ～ 7 人が見つからなかった。現在は 2 ～ 3 人が見つからず、募集している。服部勇馬選手については、素晴らしい成績で十日町市を売ってくれて、今度は日の丸を背負ってオリンピックに立たれることをうれしく楽しみに思っている。勇馬選手に刺激され子どもたちも頑張ろうと思うのではないのか。オリンピックに向けて、私たちが勇馬選手を応援しなくてはならないと思う。 ⑯ 統合するとスクールバスで送迎することから、部活動後のスクールバス運行をどのように考えているのか。 [答] 通学距離については、15 ページに記載がある。おおむね小学校が 4 km、中学校が 6 km 以内で、時間的には 1 時間程度である。当地域は豪雪地域であるため、冬期間はその距離によらずスクールバス送迎をしている。部活動が終わった後の運行は、時間差をつけて午後 4 時と 6 時の 2 便体制で運行している。それに間に合うように部活動の終了時間を設定している。 ⑰ 部活動に入っている生徒の地域により運行する路線が変わることになるのか。 [答] 通学される子どもが変わってくるため、毎年、ダイヤを含めコースが変わっている。2 便についても、1 便目に乗る子どもがいなければ走らないことになる。乗る子どもたちの状況に合わせている。 ⑱ 貝野地区の中学生が中里中学に通学している。朝は姿を見ないが、昼過ぎから夕方にかけて、徒歩で貝野地区に向かう生徒を見る。小学生でもそうなる可能性があるため、手厚い通学手段を持たないといけなと思う。夏に猪が出たり、野生動物が出る地域であるため、児童生徒の安全確保をしっかりと心配にな
---	--

（中里地区）		ると思う。 [答] 子どもたちの登下校については、学校の管理下にあるという考え方である。スクールバスに乗らないということであれば、学校で責任のある対応をすることになる。 ①⑨ Q&Aにはメリットが記載されているが、メリットだけなのか、デメリットもあると思うので記載してあれば判断材料になると思う。次の機会がいいのでお願いしたい。 [答] 方針の14ページに小規模校のメリット・デメリットの記載があるので、ご覧頂きたい。 ②⑩ 方針の12ページに教員構成の状況があり課題だというのが、統合すれば解決するものなのか。市教委は人事権が及ばないのではないか。 [答] この地域は、教員確保困難地域と言われ、地元出身で教員になる方が少ないという原因がある。この地域から大勢教員にチャレンジしていただくようになれば、時間は掛かるけれども問題が解消されると思う。 ③⑪ 給食配送設備は、中里中学校でも若干の改修をすれば整備できる。費用もそれほど掛からないので、理由として書くほどではないと思う。建築年が6年違っても、長寿命化計画で一定のお金を掛ければ長く使える。それよりも、災害区域や借地が重要なことである。今後十分検討してほしい。 [答] 今ほどの件は大きな課題と受け止めている。これから改めて検討していきたいと思う。 ④⑫ 私は建築の仕事をしているが、市町村合併をしてから、住宅を建てる際に、松之山、松代、中里から中心市街地に家を作る若い人が増えている。周辺地域の過疎化が加速され、中学校が無くなると、それに拍車がかかることは止められない。中学が無くなることは、地域にとって大きな問題で簡単には決められない。中里地域で誇りを持って、この地域を守ることができるのだろうかと不安になる。中学校を残す方法が無いのかということで、ひとつくらいは案を皆で考えて、モデルケースをつくることができないか。住民自治の理念は素晴らしいが、やはり遠かったとなるような気がする。住民の皆さんが、自信を持ってこれからも生活していくんだというところまで持っていく、学校の在り方、教育のあり方を皆で議論していかなくてはならないと感じている。 [答] 地域に学校を残すには、誇りを持ってこの地域を守っていくためにはということだと思う。今回、松之山の小中学校をこの方針に入れなかったけれども、平成29年に松之山中学校を松之山小学校に併設して、小中一貫校をスタートしたばかりであることと地理的条件で統合先を見つけるのが大変だということがあった。今後の子どもたちの推移で、松之山中学校が非常に少なくなるという心配を地域の皆さんが持っており、松之山自治振興会での説明の折に、市町村合併以前に山村留学という制度で子どもたちを連れてきて学ばせた経過があることから、検討したいという発言があった。中里地域はどのような形がいいのか、地域の皆さんの話し合いの中で方針を決めていただけると大変ありがたいと思う。また、中里地域では、清津峡トンネルに昨年は18万人を超えた方が見に来た。今年はもう22万人を越えていて、毎週末に2千人、3千人が来ている。大勢の人が見に来ているという実態を捉えながら、この地域の活性化のためにどういう動きができるかという議論をしていただき、若い人たちが定住して子どもが生まれるようであれば、とてもありが
---------------	--	--

（中里地区）		たいと考えている。 ②③ 中里中から水沢中に統合であるが、水沢地区振興会の方に話を聞いたら、来るのだから何も言うことは無いと言う方がいた。中里地域の住民が真剣に考えて、議論したり悩んでいる。馬場小学校と水沢小学校の統合については、10 年前に話があったようだが進展していないと聞いた。我々と受け入れ側の地域に温度差があるというのはいかなものか。もし、これが逆転するとなったら、そこから検討することになるのかと危惧する。行くも迎えるも 10 年後という提案があるので、受け入れ側がどういう考えをしているのか。機会があったら確認してほしい。 [答] 統合にあたっては、お互いの地域の話し合いがあってしかるべきと思う。例えば、地域自治組織同士、学校後援会同士、PTA 同士、また学校同士は当然であるが、色々なチャンネルで話し合い、子どもたちのこれからの教育環境をどうするか、学区をどういう方針にするかということを話し合いの中でしっかりと築き上げていただきたいと思います。馬場小と水沢小の統合については、平成 21 年度の第 1 次の方針で提案したものである。馬場小学校は、明治 4 年にこの地域で一番早くできた小学校であり、他の小学校は明治 7 年頃の創設が多い。自分たちがこの地域で一番早く学校を建てたというプライドが大きいと思う。そういう歴史と子どもたちが少なくなってきたという状況で、地域の皆さんが悩みながら、相談が始まってきたという現状であると認識している。 ②④ 私は、10 年後に中学校の保護者になると思う。保護者に対しての説明は、保護者から声が出ないとしないを受けとった。私たちが、説明会をしてくださいと言わなければ、することはないのか。 [答] 学校と相談しながら、随時説明会の日程を作って行きたいと考えている。 ②⑤ 方針の 18 ページの②中学校の項目に、大規模改修を行わず既存の学校施設を活用するとある。十日町市のホームページに、学校施設の長寿命化計画を推進すると書かれている。中里中学校は竣工が昭和 58 年であり、統合目標年度が 10 年後に設定されているが、その頃には 45 年経過する。鉄筋コンクリートの耐用年数は 47 年であり、ほぼ耐用年数が満了するため、統合されれば大規模改修は必要ないかも知れない。しかし、30 年以上経過しているので、しっかりと建物の診断を行い、少しでも学校が長く使えるように延命化を図ることで、コスト削減にもつながると思う。子どもたちの安全のために、しっかりと対策を執ってほしい。 [答] 耐震化については、平成 27 年度までに全ての学校を耐震化するよう国の指導があり、大規模改修や耐震化を行ってきた。最後に松之山中学校が、平成 28 年度末に新築して耐震化が完了した。それをもって学校の関係については一旦終了という考え方の中で、学校の統合については大規模改修を行わないで既存の施設を活用という表現をした。建築予算では、教育委員会が抱えている悩みの中で、社会教育施設の老朽化が進んでいることがある。耐震化をしていない施設もあり、早く耐震化をしなければならぬ。学校については、長寿命化計画により国の補助を受けながら改修を行い、できるだけ長く学校施設を使用できるようにしなければならないと思っている。
---	--	--

(中里地区)		②⑥ 借地料の 800 万円が、子どもたちの教育につながる気がしない。その 800 万円が使えるなら、バスの台数を増やすことができるかも知れないし、タブレット端末を導入して教員の負担を減らすことができるかも知れない。また、修学旅行を海外に行けるとか色々な使い方ができると思う。それを土地に使われることが非常にもったいない。子どもたちの 1 分 1 秒は可能性を秘めた貴重な時間と思うが、清田山や清津峡など遠い地区の子どもの時間を無駄にするのではないかと感じ、現実的なお金の使い方をした方が良いのではないと思う。 [答] 毎年 800 万円が借地料になっているが、借地をしたおかげで教育活動が継続してきたという背景がある。しかし、これからについては、一部でもお返しできるならお返しし、買収できる部分は、地主さんに積極的に交渉していきたいと考えている。 ②⑦ ホームページを見たが、具体的な資料が分からない。地主さんの氏名や借地の証明書などを見るにはどうしたらいいのか。どこに聞けばいいのか。 [答] それについては個人情報であり、一定の範囲で制限している。地主さんが複数おり、合計で 800 万円となっているものである。 ②⑧ 今日の質疑応答の内容は、ホームページでは見られないのか。 [答] 説明会の概要については、時間がかかっているが 2 ヶ月後くらいには、ホームページなどで公表する。 ②⑨ ホームページに公表されたという情報が、学校を通して保護者に連絡があるのか。 [答] そういうことはしていないが、誰でも閲覧できるように公民館に冊子として配置する。 ③⑩ 借地料については、学区適正化検討委員会には知らされず検討されていないとのことで、自分がその立場であれば無念だと思う。金額の多い他の学校に比べ、水沢中学校は金額も影響も大きい。できるのであれば、方針を学区適正化検討委員会に差し戻してでも、一部改定をしてほしいと思う。その可能性が無いのか、地域の声が多ければ検討していただけるのか。借地料の件に納得する方は、中里地域にいないと思うので、統合の是非を検討する前に滞ってしまうのではないかと危惧している。方針の変更の可能性としてどうなのか。 [答] 借地については大きな課題と認識している。大きなグラウンドの一部を返せないか、また買収できるところは買収できないか、これから努力していく。相手のある話なので、今の段階では借地を解消していきたいとしか言えない。借地の件をもって、学区適正化検討委員会に差し戻しは考えていない。教育委員会が、学区適正化検討委員会の答申を受け、教育委員会として定めた方針である。教育委員会の責任として今後どうして行くかについては、ある程度説明会が終わった段階で、色々な意見について教育委員会として考えたい。この方針が絶対であるということではなく、耳を傾けるべきところには耳を傾けるという考えである。 ③⑪ 8 月 5 日に貝野小学校で説明会をした記録をまとめ、PTA 会長に確認して皆さんに配布すると書いてあるが、3 ヶ月近くなるが配布されたのか。 [答] 学校にはデータを渡したが、学校を通じて配布されたかを確認していなかった。貝野小学校の保護者
--------	--	--

（中里地区）		宛には、改めて会議の内容について配布する。 ③② 今日の内容が、10 月分の説明会概要でホームページに載ると思うが、それを学校から配布してもらえるのか。 [答] 説明会概要が必要な方には渡したいと思う。一般的には、ホームページや公民館に配置するので、閲覧していただければ大変有難い。 ③③ この方針のことを1ヶ月前に知り、説明を聞きたいと思って今日来た。説明会を回覧板で知ったが、若い方は見ないと思うので、小学校低学年や保育園の保護者は知らない方が多いと思う。貝野小では説明されたそうだが、田沢ではしていないので、学校や保育園に積極的に周知してほしい。 [答] 小学校の子どもの保護者には、学校を通じて知らせることができるが、まだ学校に行っていない子どもの保護者については、情報の受け入れが難しいところがあると思う。回覧板についても、お父さんが見て次に渡すことになるのが実態ではないかと思う。田沢小と中里中の保護者への説明会を行うよう、学校と日程調整をし、学校を通じて案内する。合わせて未就学児の保護者にも同じ日程で、郵送で案内したいと思う。 ③④ まだ色々な意見を皆さんがお持ちだと思う。できれば、意見等を受け付ける窓口を作れないか。 [答] 電話であれば、教育委員会の教育総務課にいただければ有難いと思う。文書であれば、学校や公民館等にお届けいただければ、教育総務課に届くので、それを見て回答したいと思う。 ③⑤ 質疑応答だけではなく、議論してどうするのかを検討するのが一番大事だと思う。できれば、中里地域まちづくり協議会で議論の場を作っていただきたいと思うので、提案する。 [答] 議論の輪は、できれば保護者の皆さんを先行して、その後地域の皆さんを含めてという形ができれば良いと思う。説明会の順番が、地域の皆さんが先になってしまい配慮が足りなかったと反省している。 ③⑥ 中里中学校が水沢中学校に統合しない条件、統合を回避する方法はあるか。 [答] 中学校は1学年2学級という考え方であるので、中里中学校が1学年2学級になれば統合は回避できると考える。 ③⑦ 統合目標が、5年から10年に延びたのはなぜか。 [答] 検討委員会からは5年後という答申をいただいたが、昨年12月中旬に新聞報道があり、松代地域では統合反対の署名をされた。その後、橘小学校区の皆さんも反対署名された。できれば、説明をしたあとで判断していただきたいという思いがあった。新聞報道等により市民の皆さんが心配されているということで、検討委員会の答申では令和5年を目標としていたが、委員の皆様には申し訳ないと思うが教育委員会では令和10年に目標を先延ばしした。
--------	--	---